

令和元年度 長崎県国際理解教育セミナー 2月22日(土)

開会行事 会長あいさつ 長崎市立西北小学校 校長 米原拓哉

- ・混迷を極めた時代
- ・派遣動機について、もっと磨きたい、技量を高めたいはだめ。自己中心ではなく子供たちのためという視点が大切。

在外教育施設実践発表 長崎市立愛宕小学校 伊藤淳一郎 (ジャカルタ日本人学校)

- ・香港日本人学校とジャカルタ日本人学校2校の在外派遣を通じて感じたこと
- ・2つの学校の共通点、相違点などを紹介
- ・香港特別行政区 ジャカルタ(インドネシア語)
- ・ジャカルタ 財団派遣で若い人が多い

共通点

- ・体育祭、学習発表会の規模が大きく地域をあげての行事になる。
- ・外国語教育、現地理解教育に力を入れている。
- ・現地校にアンケートで日本が好きになったという感想。交流は大切と思った。
- ・香港 返還後中国化が進んでいる、香港を離れる人も。
- ・ジャカルタ 英語に力を入れている。
- ・現地スタッフが頼りななる。香港 水泳はライセンスがないと指導できない、現地スタッフがする。清掃、見守りなど
- ・ジャカルタ カリヤワンさんが様々な面で派遣教員を支えてくれる。
- ・ジャカルタ 警備員が多い。

相違点

- ・小と小中一貫校 メリットデメリットがある。
- ・生活 治安、雇用主、地域社会との交流は違う
- ・香港は子供たちだけで買い物、日本と同じような感覚で過ごせる。
- ・ジャカルタは違う。不健康地域国費で帰れる。ドライバー、メイドを雇う。

派遣で大切なこと

- ・日本と違うのは当たり前、日本と違う教育ができることに楽しみを見つける。
- ・その学校でしかできないことをやったほうがいいのではと思う。
- ・派遣教員の生活が苦しいときは、あきらめること。家族が多いと、在勤手当出なかなえなくなる。ジャカルタ
- ・厳しいが行く価値はある。いろんな人とのコミュニケーションがある、大切な出会いがあるから。お金には代えられないものがある。

在外教育施設実践発表 長崎市立南長崎小学校 校長 松尾 功子 (台中日本人学校)